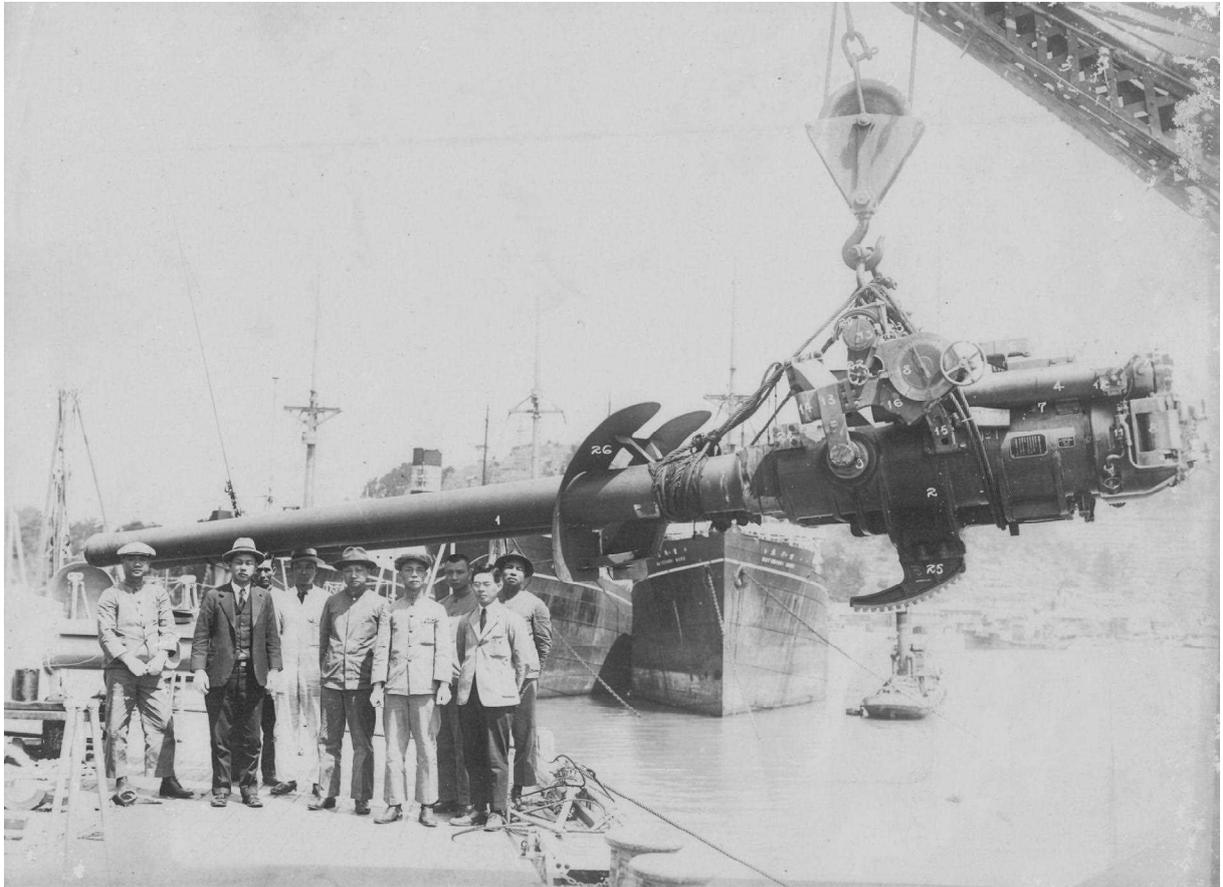


ハルビンへ貨車輸送されて組み立てられた砲艦



満州へ搬出される12糎高角砲 松井照男氏提供

1931(S6)年9月、関東軍は満州事変を起こして満洲全土を占領し、1932(S7)年3月、満州国の建国を宣言しました。満州国の中央部を流れる松花江を警備する海軍を江防艦隊といいます。江防艦隊の主力艦「順天」「養民」排水量270トンと「定辺」「親仁」排水量290トンについて、播磨造船所50年史に次のような記述があります。

満州国の砲艦「順天」および「養民」の2隻は、ハルビン郊外松花江岸に臨時に建設された工場において建造する関係で、月岡常登以下職員・工員を同地に派遣し、一応相生で完全に仮組立したものを、貨車輸送ができる範囲のブロックにして、昭和9年5月より同地へ発送し、6月1日に起工、10月1日完成のうえ引き渡した。

この度、戦史研究家小高正稔氏から解説をいただき、上の写真がこの記事に関連するものであると判明しました。この砲は45口径十年式12糎高角砲の連装型です。十年

式12糎高角砲の連装型を搭載したのは空母赤城・加賀のみですが、加賀は1934年の大改装時に高角砲を新型の12.7糎連装高角砲に換装しています。写真は加賀から降ろした高角砲を満州国砲艦の主砲に転用するため相生から満州に向けて搬出しようとしているときのものである可能性が高いと思われます。

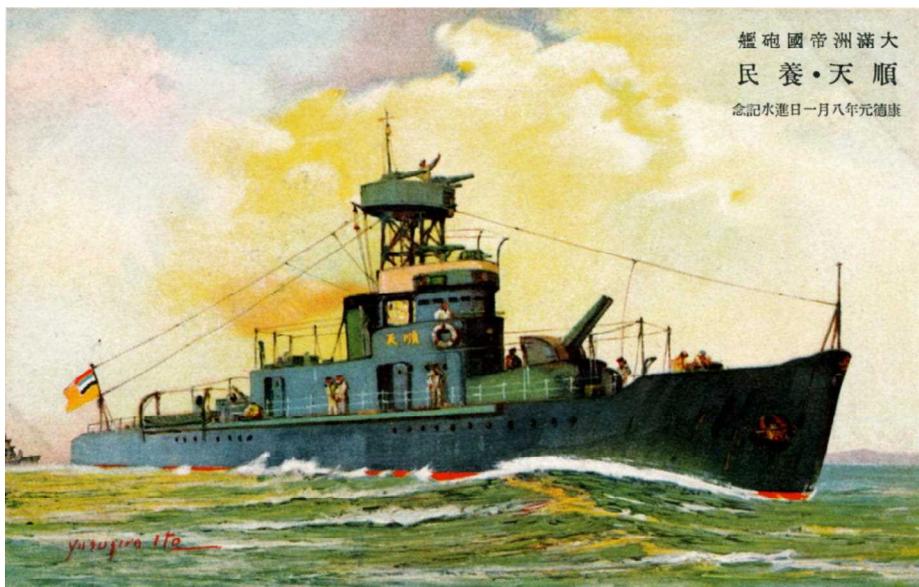


大満洲帝国軍艦順天養民建造記念 神谷泰彰氏提供



大満洲帝国砲艦「定辺」型 月岡定康氏提供

左は松花江を航行する定辺型砲艦です。順天型270トンと定辺型290トンは良く似ているのですが、小高正稔氏によると「前部の主砲は同じだが後部の砲は異なる」ので区別できるのだそうです。



大満洲帝国砲艦「順天・養民」進水記念絵葉書